

5  
6582  
7

< 98 - 143 >



しるしめたるは言ふもなきは  
まはさぬてさゆふいふいふ  
侍まぬの好いふはぬ  
たまふふいふ

あまきつるは言ふもなきは  
まはさぬてさゆふいふいふ  
侍まぬの好いふはぬ

五月十日 五月十日

あまきつる

まはさぬてさゆふいふいふ

あまきつる

あまきつる

人さしふらのささのさささささささ  
ささささ風物よくささささささ  
そとさささささささささささ  
ささささささささささささ  
ささささささささささささ  
花さあささのささささささ  
のささのささささささささ  
れさささささささささささ

水物さささささささささ  
ささのさささささささ  
ふさささのさささささ  
さささささささささ  
さささささささささ  
さささささささささ  
さささささささささ  
さささささささささ  
さささささささささ  
さささささささささ

始に縁成をさす

おのゝよ源にたれ

あはれにりぬ

あはれに

己の業

等

あやめぬと都日



存  
請  
此  
つ  
南



情字一画一学字一  
者一君月固如也  
唯此子之精神  
从今之口之陆  
海之口之相也

为心也力也

代之口之清之

松子之公事也





わがこゝろにこそ ありては ありては ありては  
ありては ありては ありては ありては ありては  
ありては ありては ありては ありては ありては  
ありては ありては ありては ありては ありては  
ありては ありては ありては ありては ありては  
ありては ありては ありては ありては ありては  
ありては ありては ありては ありては ありては  
ありては ありては ありては ありては ありては  
ありては ありては ありては ありては ありては  
ありては ありては ありては ありては ありては

阿仁山

のいささか

あつた

あつた



千手をばさるる川  
身をばさるる峰の  
神をばさるる障  
峰の表の空をばさるる  
ふ一時

一観むしや 結くも

そや ちあー

のちあ

太年



蘭州府志

蘭州府志卷之五  
地理志  
山川  
蘭州府志卷之五  
地理志  
山川

蘭州府志卷之五

蘭州府志卷之五  
地理志  
山川

蘭州府志

蘭州府志



此印を龍が根に於て心算に  
 之を流し凌ぐに端坐の意  
 なき世に成るに先海の迄  
 之修ふりありて水に年月  
 此の如くありて五月の月  
 折して暮る語半に之を  
 其の中へ唯風ありて  
 祝しに汝の心あり

家  
 飛  
 舟  
 小  
 舟

〰  
 〰  
 〰  
 〰

一  
 〇  
 〇





水無月 中流に美月  
 因の如く 蓮花を紙に  
 おうと 所あらば 花を  
 みるに 花ありて 紙と

七言 柳 子 七の如く  
 一 月 子 七の如く 物  
 是れ 七の如く 七の如く  
 七の如く 七の如く 七の如く  
 七の如く 七の如く 七の如く

自備一ノ水田金珠  
玄治中一餘年毛の  
先就るをよ既かり  
こころ襟を被るを

凡俗をこころ中  
物取の後就忘れ

信女



多味な中

心乃者

板本以

庚申秋月圓を初め

いふ所の都々々々々々々々々々々々

中書中

行々々々々々

み

芝幻

弄月園に常々交遊之  
上 如月の初夜念如  
孫未世不狂言の事  
為ふ如我の美河を  
詠免清涼を眼下に  
見於近し 四季の風詠  
之を常悦しけり

耳神 亦休言

子守歌



本音の由

あな


更衣



江平源以森舒  
桐古子莫

居新哉のしき

あつしき

松林の  


許結之修也

初書り七  
記

道操

卷八



中武彦

合右殿

谷中村

信長殿

卷八

弄月圓

月夜思

思君如月夜

夜思如月夜

子  
子  
子

矢倉

柳下

弄月圓大人

弄月圓大人  
時を以て弄月圓の一夜は若くも人忠厚を  
借下て弄月圓の一夜は若くも人忠厚を  
弄月圓の一夜は若くも人忠厚を

兔角——て

子  
子  
子

弄月圓大人

息のみな 岸 遠く

長月 園主人 祈 祈を

まゝに 下 ちかき 祈

枝子 祈を 祈 祈

風を 又 乞 松の 若 幸を 乞

祈 祈を 祈 祈

祈 祈を 祈 祈

息のみな 祈

祈 祈を 祈

字 山



ふたつの中を解いて  
ふたつの中を解いて  
ふたつの中を解いて  
ふたつの中を解いて  
ふたつの中を解いて

ふたつの中を

ふたつの中を

ふたつの中を

ふたつの中を



尚一人に於て其の志を以てして  
 其の志を以てして其の志を以てして  
 其の志を以てして其の志を以てして  
 其の志を以てして其の志を以てして  
 其の志を以てして其の志を以てして  
 其の志を以てして其の志を以てして

其の志を以てして其の志を以てして  
 其の志を以てして其の志を以てして  
 其の志を以てして其の志を以てして  
 其の志を以てして其の志を以てして  
 其の志を以てして其の志を以てして  
 其の志を以てして其の志を以てして

其の志を以てして  


昇るに上る

道に上るに上る

外



昇るに上る

昇るに上る

昇るに上る

友成

印



あはれなる御書に御返す

あはれなる御書に御返す

あはれ

あはれなる御書に御返す

あはれなる御書に御返す

あはれ

あはれなる御書に御返す

あはれなる御書に御返す

あはれなる御書に御返す

あはれなる御書に御返す

あはれなる御書に御返す

あはれ

今一...  
的...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

長雅  


社々好又いさひさひと  
 ね杖赤やうきつゝの漢を  
 赤木くくくくくくくく  
 有園く枯移り儀情を  
 くくくくくくくくくく  
 名々平つるるるるるる  
 名々昇うりくくくくくくく  
 くくくくくくくくくく  
 又くくくくくくくく  
 ちおんくくくくくくく  
 夢一川さかくくくくくく  
 いかんくくくくくくく  
 廿六なごくくくくくくく  
 全あま学まなくくくくくく  
 紙あはすくくくくくくく  
 しめくくくくくくく

有  
山  
と

ふ  
ら  
か  
り  
く

水  
空  
く  
か

山  
路  
か

梅  
山  
生  
花  
も

新  
集  
の  
白  
山  
文

山  
路  
か  
新  
集

Handwritten cursive text in vertical columns, likely a poem or a letter. The characters are highly stylized and difficult to decipher precisely, but some legible characters include '月' (Moon) and '觀' (View).

Large, bold vertical calligraphic strokes, possibly representing a signature or a specific character.

Handwritten cursive text, appearing as a signature or a short inscription.

平河 (Heiwa) written vertically, with a red seal impression below it.



昇月園

~~~~~

川北平定本

~~~~~

也一

升月園

~~~~~

~~~~~

